様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　　6月　5　日現在

機関番号：23903
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22520274
研究課題名（和文）　アジアにおける欧米西洋人劇団のシェイクスピア上演－19 世紀の異文化交流
研究課題名（英文）　Shakespeare Productions by Western Travelling Companies in Asia--The Intercultural Performance in the 19th century
研究代表者
小林　かおり（KOBAYASHI KAORI）
名古屋市立大学大学院・人間文化研究科・教授
研究者番号：40308820

研究成果の概要（和文）：日本における西洋人劇団の上演、とくに 1891 年に来日したミルン一座と 1912 年に来日したウィルキー一座のシェイクスピア上演を国内外での資料収集をもとに明らかにした。また、これらの西洋人劇団が日本の演劇にもたらした影響を 1911 年に坪内逍遥によって演出された『ハムレット』に焦点を当て、明らかにした。そして、坪内逍遥が 1911 年に上演した『ハムレット』を東西の文化や表現様式を融合させた日本で初めての異文化混淆上演ととらえ、分析することにより、これまでアジアで行われてきた異文化を掛け合わせたシェイクスピア上演を語る一つのパラダイムを探す試みを行った。

研究成果の概要（英文）：I clarified the Shakespeare productions done by the Miln Company and the Allan Wilkie Company by consulting various materials in Japan and abroad. Focusing on the production of *Hamlet* directed by Tsubouchi Shoyo in 1911, I attempted to illuminate the influence of these western companies on Shakespeare productions in Japan. I categorized Tsubouchi's production of *Hamlet* as one of the first intercultural Shakespeare performances in Japan and in doing so contributed to the development of a new analytical paradigm for discussing intercultural performance in Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：英米・英語圏文学
科研費の分科・細目：
キーワード：シェイクスピア上演、異文化交流

１．研究開始当初の背景

昨今、シェイクスピア上演研究の場に於いて、西洋・東洋間の異文化交流に焦点が当てられている。しかしながら、最近、とくに 1990 年代以降のシェイクスピア上演の異文化交流に関しての研究が進むなか、明治・大正期に日本を訪れ、日本の知識人に多大な影響を与えた西洋人劇団の研究はほとんどなされていない。19 世紀の末あたりから大英帝国および日本を含むアジアを巡業していた西洋人劇団は数多くあった。彼らの上演は居留地に住む西洋人、ことに英国人たちのための余興であり、時には英国人的なナショナリズムを高揚することもあった。その一方、西洋人

による上演は現地の知識人にとって本場の上演を観る機会にもなっていたのである。インドなどの大英帝国諸国では、西洋人劇団のシェイクスピア上演は英国の帝国統治における「文明化の使命」の一環であり、彼らの上演は帝国主義者たちの文化や価値観を再生する場でもあった。しかし、日本における西洋人劇団の受容はインドとは異なっており、調査・研究する価値がある。

この研究課題は平成 6，7 年に英国ウォリック大学の博士後期課程に留学した時から始めたものである。英国滞在の二年間には、主にロンドンの大英図書館でアジア各地を巡業していた西洋人劇団の資料を収集した。帰国後、平成 12～13 年度に科学研究費補助金奨励研究（A）を受けてさらに研究を続けた。その成果は国内外の学会や学術雑誌で発表している。(以下参照)

① “Shakespeare Wallah: Geo. C. Miln’s Shakespearean Productions in India.” Australasian Drama Studies 33 (Oct 1998): 117- 28.

② “Touring Companies in the Empire: The Miln Company's Shakespearean Productions in Japan.” Shakespeare and his Contemporaries in Performance. Ed. Edward Esche (London: Ashgate Publishing, 2000) 53-72.

③学会発表 : 2001 年 4 月“Shakespeare and the National Identity – TSUBOUCHI Shoyo and his “authentic” Shakespearean Productions in Japan.” 第 7 回国際シェイクスピア学会（於スペイン・バレンシア）

④学会発表：2003 年 10 月「坪内逍遥の「正統的な」シェイクスピア上演――明治・大正期の知識人と西洋文化の受容」第 43 回シェイクスピア学会（於金沢大学）

⑤「西洋人劇団と草創期のシェイクスピア翻訳劇上演――ミルン一座と坪内逍遥」、『同朋論叢』第 90 号（2006 年 3 月）:142-56.

⑥ “Shakespeare and the National Identity –TSUBOUCHI Shoyo and his “authentic” Shakespearean Productions in Japan.” Shakespeare [英国シェイクスピア協会学会誌] Vol.2: 1 (June 2006): 59-76.

以上のように、ミルン一座のアジアにおける巡業と彼らが 1891 年に来日した際に坪内逍遥に与えた影響はある程度明らかになったが、ほかの劇団、例えば 1912 年に来日したウィルキー一座が坪内逍遥と小山内薫などの日本の知識人に及ぼした影響の研究は本研究期間の課題とした。また、こうした欧米西洋人劇団が東アジアの他諸国で現地の知識人に与えた影響も本研究期間の課題とした。

２．研究の目的

科研費交付の期間内には次の三点を明らかにすることを目的とした。

１）日本における西洋人劇団の上演、とくに1891年に来日したミルン一座と1912年に来日したウィルキー一座のシェイクスピア上演を国内外での資料収集をもとに明らかにする。まず、これまでに収集した資料と合わせて、故名古屋大学名誉教授升本匡彦氏が個人的に遺してくださった日本を巡業していた西洋人劇団に関する膨大な資料の整理から着手する。

２）日本の知識人が西洋人劇団のシェイクスピア上演をいかに受容したかを他のアジア諸国、とくに帝国主義の一環として受容せざるを得なかったインド等と比較して明らかにする。升本氏の調査では漏れているインド、シンガポール、香港など大英帝国での西洋人劇団の資料を収集する。これらの情報はロンドンの大英図書館が所蔵する膨大な新聞、書簡などから得ることができる。また、インド、シンガポール、香港の図書館が所蔵している資料の調査をする必要がある。

３）明治期の日本の知識人はシェイクスピア劇を西洋文明の鑑として導入した。彼らは西洋人を「他者」として文化的アイデンティティーを構築していたのである。しかしながら、日清・日露戦争を経て、台湾、韓国を併合すると、彼らはアジアに新たな「他者」を見出す。そして、彼らの西洋文明に対する姿勢は徐々に変わっていく。日本の知識人の文化的アイデンティティーがアジアに「他者」を見出したのちに変遷していったさまを、彼らの西洋人劇団によるシェイクスピア上演に対する印象の変遷から紐解く。じっさい、1891 年に来日したミルン一座と 1912 年に来日したウィルキー一座に対する坪内逍遥の印象は大幅に変わっている。

３．研究の方法

１）日本における西洋人劇団の上演、とくに1891 年に来日したミルン一座と 1912 年に来日したウィルキー一座のシェイクスピア上演を国内外での資料収集をもとに明らかにする。

２）明治・大正期の日本の知識人が西洋人劇団のシェイクスピア上演をいかに受容したかを他のアジア諸国、とくに帝国主義の一環として受容せざるを得なかったインド等と比較して明らかにする。

３）明治・大正期の日本の知識人の文化的アイデンティティーを、彼らの西洋人劇団によるシェイクスピア上演に対する印象の変遷から紐解く。

４．研究成果

日本における西洋人劇団の上演、とくに1891 年に来日したミルン一座と 1912 年に来

日したウィルキー一座のシェイクスピア上演を国内外での資料収集をもとに明らかにした。また、これらの西洋人劇団が日本の演劇にもたらした影響を 1911 年に坪内逍遥によって演出された『ハムレット』に焦点を当て、明らかにした。そして、坪内逍遥が 1911 年に上演した『ハムレット』を東西の文化や表現様式を融合させた日本で初めての異文化混淆上演ととらえ、分析することにより、これまでアジアで行われてきた異文化を掛け合わせたシェイクスピア上演を語る一つのパラダイムを探す試みを行った。

この成果をプラハで行われた第 9 回国際シェイクスピア学会のセミナーで"Intercultural Shakespeares in Asia: Tsubouchi Shoyo's Production of *Hamlet* in 1911"として発表した。また、ペナンで行われた The 2nd International Conference on Linguistics, Literature, and Culture 2012 では"When the East meets the West: Shakespearean Productions by Travelling Companies in Asia"として発表した。それぞれの論文は、"Between the East and the West: Tsubouchi Shoyo's Production of Hamlet in 1911" *Renaissance Shakespeare/ Shakespeare Renaissances, Proceedings of the VIIII World Shakespeare Congress 2011* (University of Delaware Press)（2013 年 6 月段階印刷中）、「東と西のあいだで―坪内逍遥のハムレット公演（1911）」、『シェイクスピア・プリズム』、星久美子ほか編（金星堂、2013 年 4 月）として出版した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
1.Kobayashi Kaori, Suematsu Michiko. "Asian Shakespeare Intercultural Archive (A-S-I-A): A Collaborative Digital Project". *Shakespeare Review* [韓国シェイクスピア協会学会誌] Vol.46 No.1(Spring 2010) : 23-34.

〔学会発表〕（計 5 件）
1. Kobayashi Kaori, Nurul Low. "When the East meets the West: Shakespearean Productions by Travelling Companies in Asia". The 2nd International Conference on Linguistics, Literature, and Culture 2012, Penang: Malaysia, 2012 年 11 月 7 日.

2. Suematsu Michiko, Hyon-u Lee, Alexander Huang, Kobayashi Kaori. "Workshop: Asian Shakespeare Intercultural Archive (A|S|I|A) -- A Digital Project for Developing Research and Pedagogy in Asian Shakespeare Performance". The 6th Conference of the NTU Shakespeare Forum, 台湾国立大学, 2012 年 6 月 8 日.

3. Kobayashi Kaori. "Asian Shakespeare Intercultural Archive (A|S|I|A): A New Digital Project for Developing Research and Pedagogy". British Shakespeare Association 10th Anniversary Conference. University of Lancaster. 25th Feb. 2012

4. Kobayashi Kaori. "Intercultural Shakespeares in Asia: Tsubouchi Shoyo's Production of Hamlet in 1911". 9th World Shakespeare Congress, Prague, 19 July 2011.

5. Bruce Smith, Katherine Rowe, Suematsu Michiko, Kobayashi Kaori. "Seminar Shakespeare and Next-Generation Open Web Technology". 第 49 回シェイクスピア学会、福岡女学院大学、2010 年 10 月 15 日.

〔図書〕（計 3 件）
1. Kobayashi Kaori. "Between the East and the West: Tsubouchi Shoyo's Production of Hamlet in 1911" *Renaissance Shakespeare/ Shakespeare Renaissances, Proceedings of the VIIII World Shakespeare Congress 2011* (University of Delaware Press)（2013 年 6 月段階印刷中）.

2.小林かおり、「東と西のあいだで―坪内逍遥のハムレット公演（1911）」、『シェイクスピア・プリズム』、星久美子ほか編（金星堂、2013 年 4 月）109-20.

3.『日本のシェイクスピア上演研究の現在』、風媒社、小林かおり編、202 頁、2010 年 4 月.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　かおり（KOBAYASHI KAORI）
名古屋市立大学大学院・人間文化研究科・教授
研究者番号：40308820

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：